

【感想】

- 検証資料は素晴らしい中身で、非常に綿密になさっている。全国を異動しており、各地区の行政と連携しているが、産学官金労言でここまで意見を反映しているのは初めてで、素晴らしい。
- 評価項目に「村が事業を実施することが妥当か」とある。事業のスタートは村がやるが、やりながら事業を受ける民間を育てるとの意味であれば大満足と思って見させていただいた。
- 読み込むのに労力の要る資料であったが、それだけしっかり取り組んでみえるかと思うし、昨年よりいろいろな形で進んでいることや、無くなったこと、まだとりかかっていないことも、わかりやすい。

【戦略改善の視点】

- 全体を、定住に関する部分で事業整理されると良い。事業継承は、白川村に限らず飛騨市や高山市でも大きな問題であり、継承者を呼びこむような事こそ戦略だと思う。
- 事業承継が各地で大きな課題になっているので、その対策があると良いと感じた。
- 事業項目には入っているが、商工業の視点が足りないかと感じる。そういう視点を入れると変わるのではないかと。人だけでなく、産業を育てていく視点が大事である。
- 隣接自治体では、若者が古民家に入るケースや探しているケースが見られ、補助メニューもある。そこに思い切って、他より手厚い支援策を打ってみるのが戦略ではないか。基金も活かせる。全国で求めている人は多いので、売りになるし、イメージ戦略にもなる。そうなると、細かい事業が回っていく。税金としても回る(戻ってくる)ので、定住や観光に大きく手当しても良いのではないかと。

【戦略資源(人員)の視点】

- 全部を行政でやる時代ではないと思う。どこにアウトソーシングするか、特化した部分で使わない手は無い。総合戦略とあるが、41事業は実際には細かいので戦術である。単独で成果を得るものではないので、組直すのも必要ではないだろうか。
- 職員さんは、色々な分野もやらないとやっていけない地域であり、職員スキルや経験値があると思う。あとは民間に委ねることや、活かしていくようにしていくと良い。
- 去年の会議にて、時間や人手が足りているかお聞きしましたが、変化はありましたか。資料を見ていて、厳しいと読める部分がある。やりたいけどやれないのは、人が足りていないのかと思う。
- 職員数を増やせない現状を打破しないと、今の行政の人力ではできない気がする。財政が苦しい時期もあったが、外野から見ている限り、健全財政で余裕がある。1年たって進んでいない部分もあり、マンパワーの絶対数が足りない部分がある。消化しきれない部分があるなら、補強するのが1村民の願いである。

【戦略再構成の視点】

- 人の手が足りないなら、(事業)スクラップも必要ではないだろうか。前からやっているのに、そのまま(予算を)つけていこうという状況に見える。
- 各事業と達成すべき目標が、整合的になっているのかが気になっている。できるならば、複数事業で目標を達成する。それは、官だけでなく民も含めであり、そういった道筋がバラバラに見える。専門家が少ないとのことなので、プランニングは外部依頼すると良い。計画では、どれを続け、どれをやめるか、が必要で、アクションプランのようなものがあると良いかと思う。

人員に関するオブザーバー(各課)のコメント

- ◆ 職員は特別職を含めて68人、うち7人が高山消防署への派遣、かつ4人が出先等に配属されている。役場、診療所、保育園とみて、人員は多くはない。昨年募集も選べるような応募(数)が無い現状と、採用と同数の退職があり、人の活性化は図られている一方で、担当課に適正な配置人数が置けているかは難しい。一人何役もしている現状もある。全体的には、人が少ないことが課題としてある。
- ◆ 人数が少なく積算業務は外部団体をお願いしているなかで、1人何役もやっていて、病気(による欠勤)があるとまわらない。
- ◆ 業務に関する法改正等に都度対応すると共に、観光客ニーズへの対応やソーシャルビジネスなど、その都度、居る職員で対応していく。勉強する時間や資料集めの時間は大変で、足りているかどうかでは足りていないが、与えられる人材で事業をこなしていく現状である。
- ◆ 役場の中で人も減っており、仕事が若干増えている。スクラップされる事業が少ない印象は受ける。
- ◆ 企画はすんなり出る事案も、商品にもっていくまでに時間がかかる。職員の能力の問題ではなく、専門性のある雇用が難しいのが課題。
- ◆ ある程度企業誘致の方向性が取れば、他の課に戻る(内容だと)と思う。(現状)2名でいろいろなバラエティに富んだ仕事をしなくてはならない。
- ◆ 村民の健康について広範に注力しており、問題点は本人が課題視するか否かで、本人の意識改革が必要である。手一杯であるが重点事業については(人員を)確保している。

【検証プロセスについて】

- 第1回で概要説明や質疑があり、(それが)訂正されており、検証する側として見やすいと思った。現状対応のところで、「進めて行く」、「検討していく」で終わっているところは、その後どうなったか来年には書かれていると良いと思う。
- 重点的事業に選ばれた事業が、これだという必然性があるのかという思いもある。また、検証委員会の時期について、意見をまとめて結果を報告することになっているが、予算前の時期に結果をいただければ、より良く活かせると思う。
- 全ての事業(資料)で右上に事業費を記載する枠があるが、ここに予算が計上されている継続事業に評価したい。終わるなら評価しないという判断の目安になる。(→第2回会議資料や公開資料では、掲載可能な事業費を追加済)